

海外安全対策情報（2025年2月～5月）

1 社会・治安情勢（報道内容・コントロールリスクス社提供資料ほか当館調べ）

（1）テロ等の情勢

2025年2月、バロチスタン州内の CPEC 関連の建設現場、治安機関の車列等が攻撃された。昨年12月、政府は CPEC プロジェクトの安全確保のために約1万2,000人の治安機関員を配備したと公表したが、依然として警備が困難であるといえる。

3月2日、バロチスタン州の反政府組織の連合体であるバローチ人民抵抗戦線（BRAS）は攻撃面の作戦の強化（※1）を発表した。

※1 攻撃面の作戦の強化とは、「散発的な作戦」から「組織化され、調整され、決定的な力」に変えることとしている。パキスタン及び中国との戦いに「さらなる激しさと革新」が導入されゲリラ戦を近代化する。「同意なく」押し付けられた開発プロジェクトに対して、継続して主要な標的にすることをあげている。

11日、バロチスタン州ボランにおいて、バロチスタン解放軍（BLA）はジャーファル・エクスプレス（クエッタ発ペシャワール行き特急列車）を襲撃して、一時数百人以上を人質に取り、民間人を含む治安部隊員30人以上を殺害した。

パキスタン・タリバン運動（TTP）、BLAともに治安部隊員、政府要人、政府・中国主導の開発計画を主要な標的としている。

14日、TTPが春季攻勢を宣言した。パキスタン軍がバローチ人とパシュトゥーン人を標的にし、天然資源を搾取していると非難して、政府及び軍に対する「ジハード」を国民に呼びかけた。

26日から28日にかけて、BRASは治安部隊とインフラに対して全数十か所に連続攻撃を行ったと声明を出した。大きなものでバロチスタン州ケチにおいて、CPEC関連のトラック4台が放火、同州グワダルにおいて国道を封鎖しバスの乗客が6人射殺されたほか、IEDにより警察車両が爆破され4人が死亡、パンジャブ州ラジャンプールにおいてガスパイプラインが攻撃された。バローチ分離主義勢は、3月27日が1948年パキスタン政府がバロチスタンを併合した日としている。

4月22日、インドのパハルガムにおいて発生したテロ事件を発端にインド・パキスタン関係が急激に悪化した。5月7日インド政府がパキスタン国内9か所を攻撃したことに対して、パキスタン軍も応戦し、10日未明、両国の緊張が更に激化したが同日夕方アメリカの仲裁により一時停戦に至った。

（2）主なテロ事件

【2月】

7日、バロチスタン州ヌシュキにおいて、軍とBLAとの衝突により兵士13人が死亡した。

10日、バロチスタン州パスニーの沿岸警備隊の駐屯地において、即席爆発装置（IED）が爆発し、兵士5人が死亡した。BLAが声明を発出。

11日、バロチスタン州ケチにおいて、BLAが陸軍を待ち伏せし、兵士7人が死亡し他4人が負傷した。

15日、カラチ市オランギ地区の交差点において、警察官が銃撃され死亡した。TTPが犯行声明を発出。

17日、バロチスタン州マシュカイにおいて、治安部隊に対する3回の攻撃により、兵士13人が

死亡、7人が負傷した。2月24日、バロチスタン州カカートにおいて、中国企業が使用するトラックの車列29台が攻撃され、警察官6人が負傷した。BLAが犯行声明を発出。

28日、バロチスタン州クエッタにおいて、国境警備隊の乗車する車列がIED攻撃により10人が負傷した。

【3月】

1日、カラチ市のpreedy警察署内に手榴弾が投げ込まれ3人が負傷した。

10日、バロチスタン州ケチで、国境警備隊の車両がIEDで攻撃を受け7人が死亡した。バロチスタン解放戦線（BLF）が犯行声明を発出。

16日、シンド州ゴトキにおいて、政治家の車列が銃撃され1人が死亡、3人が負傷した。

24日、カラチ市オーランギータウンにおいて、地元政治家がバイクに乗車した者から銃撃を受け死亡した。

28日、カラチ市マリール警察署に手榴弾が投げ込まれ4人が負傷した。

30日、カラチ市カイダバードにおいて宗教活動家がバイクに乗車した者から銃撃を受け死亡した。

30日、カラチ市ソラーブゴートにおいて、勤務後のレンジャー隊員が施設の外で銃撃を受け死亡した。

【4月】

15日、シンド州ジャムショロ警察署に手榴弾が投げ込まれた。死傷者なし。

15日、バロチスタン州マストウングにおいて、警察車両がIEDにより攻撃を受け22人が死傷した。イスラム国ホラサン州（ISK）が犯行声明を発出。

23日、バロチスタン州マストウングにおいて、ポリオワクチンの接種活動を警護していた警察官2人が銃撃を受け死亡した。

25日、バロチスタン州クエッタにおいて、警察車両がIEDによる攻撃を受け、兵士7人が死傷した。

【5月】

6日、バロチスタン州ボランにおいて、警察官の車両がIEDで攻撃を受け7人死亡した。

13日、バロチスタン州ヌシュキにおいて、パンジャブ州から来た建設現場労働者が銃撃され4人死亡した。

14日、バロチスタン州クエッタにおいて、印パ対立の「パキスタン勝利集会」に手榴弾が投げ込まれ2人死亡、9人が負傷した。

21日、バロチスタン州フズダルにおいて、軍系列の学校のスクールバスに自爆攻撃を行い5人が死亡、多くの子供が負傷した。

（3）カラチ市内の一般犯罪情勢

ア 傾向

カラチ市内の路上犯罪の増加に伴い、警察によらない市民の自力救済が強まっている。過去3年間で年間20～30人の強盗犯が逆に暴行等のリンチを受けていると報じられている。本年だけでも、ナジマバードで市民が逃走する強盗犯を発見して殴る蹴るの暴行を加えたことに対して、警察官が威嚇発砲し、別の日にはナジマバードで、強盗犯がスマートフォン等を強取していたところ、被害者側

が強盗犯2人と打ち合いになり犯人2人を射殺した。

ビラルコロニーでバイクに乗車した2人組が男性を襲撃したところ、逆に発砲されて逃走するなどの自力救済が起きている。

2025年3月までの間、カラチ市内では約1万7,000件の路上犯罪（強盗、窃盗等）が発生したが、132人が強盗犯に射殺され、少なくとも26人が強盗犯に抵抗した結果射殺された。主な犯罪手口として、スマートフォンの強盗約4,300台、オートバイ盗約1万2,000台、自動車盗約540台があげられる。

イ 主な一般犯罪事件等

2月8日、コランギーで窃盗犯に抵抗したところ男性が射殺された。

3月23日、コランギーで怨恨により住居に押し入り家人を射殺した

3月13日、市内バスの中で強盗団が乗務員に銃を突きつけ、現金115万ルピーを強奪し、警備員の武器と携帯電話も奪った。

4月16日、リアカタバードで行方不明になっていた8歳の少女がロープで縛られた状態で遺体で発見された。

5月2日、ニューカラチ地区で店舗強盗に入った犯人が住民に捕まりリンチを受け、火を付けられ殺害された。

2 当面の警戒を要する主要行事

アーシュラーによるテロ、道路封鎖（7月5日、6日予定）

モンスーンによる道路冠水

犠牲祭による衛生面、疫病等への注意

3 統計

※テロ件数は、在イスラマバード民間シンクタンク「パキスタン平和研究所」資料。

※一般犯罪統計は、C P L C（Citizens Police Liaison Committee）資料。

（1）2025年のテロ発生状況

○ シンド州（カラチ市を除く）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
発生件数	0	0	0	1	0								1
死者数	0	0	0	0	0								0
負傷者数	0	0	0	0	0								0

○ カラチ市

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
発生件数	1	1	5	0	0								7
死者数	0	1	3	0	0								4
負傷者数	1	0	6	0	0								7

○ パロチスタン州

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
発生件数	22	25	36	19	15								117
死者数	60	86	109	50	20								325
負傷者数	64	45	130	27	22								288

(2) カラチ市内の主な一般犯罪の発生状況

○ 2022年から2024年の犯罪状況

	2022	2023	2024
強盗(自動車)	161	264	283
窃盗(自動車)	2,105	2,046	1,802
強盗(バイク)	4,970	7,299	8,204
窃盗(バイク)	51,901	48,229	41,858
強盗(携帯電話)	28,561	28,085	19,639
誘拐	13	17	20
殺人	592	647	543

○ 2025年の発生状況

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
強盗(自動車)	31	36	21	19									107
窃盗(自動車)	151	159	139	131									580
強盗(バイク)	617	549	574	569									2,309
窃盗(バイク)	3,413	3,224	3,605	3,176									13,418
強盗(携帯電話)	1,585	1,402	1,312	1,364									5,663
誘拐	3	1	1	3									8
殺人	54	36	42	53									185

○ 地区別の発生状況

強盗(自動車)	2023	2024	2025
EAST(EAST)	133	163	49
MALIR(EAST)	42	40	10
KORANGI(EAST)	12	9	11
WEST(WEST)	37	21	5
CENTRAL(WEST)	24	22	14
SOUTH(SOUTH)	9	15	16
KEAMARI(SOUTH)	11	13	2
合計	268	283	107

窃盗(自動車)	2023	2024	2025
EAST(EAST)	688	647	172
MALIR(EAST)	112	124	25
KORANGI(EAST)	207	204	51
WEST(WEST)	69	53	18
CENTRAL(WEST)	672	473	194
SOUTH(SOUTH)	268	267	104
KEAMARI(SOUTH)	44	34	16
合計	2060	1802	580

強盗(バイク)	2023	2024	2025
EAST(EAST)	2491	2777	862
MALIR(EAST)	651	962	252
KORANGI(EAST)	1057	1071	288
WEST(WEST)	1123	1307	354
CENTRAL(WEST)	1635	1477	323
SOUTH(SOUTH)	152	225	86
KEAMARI(SOUTH)	279	385	144
合計	7388	8204	2309

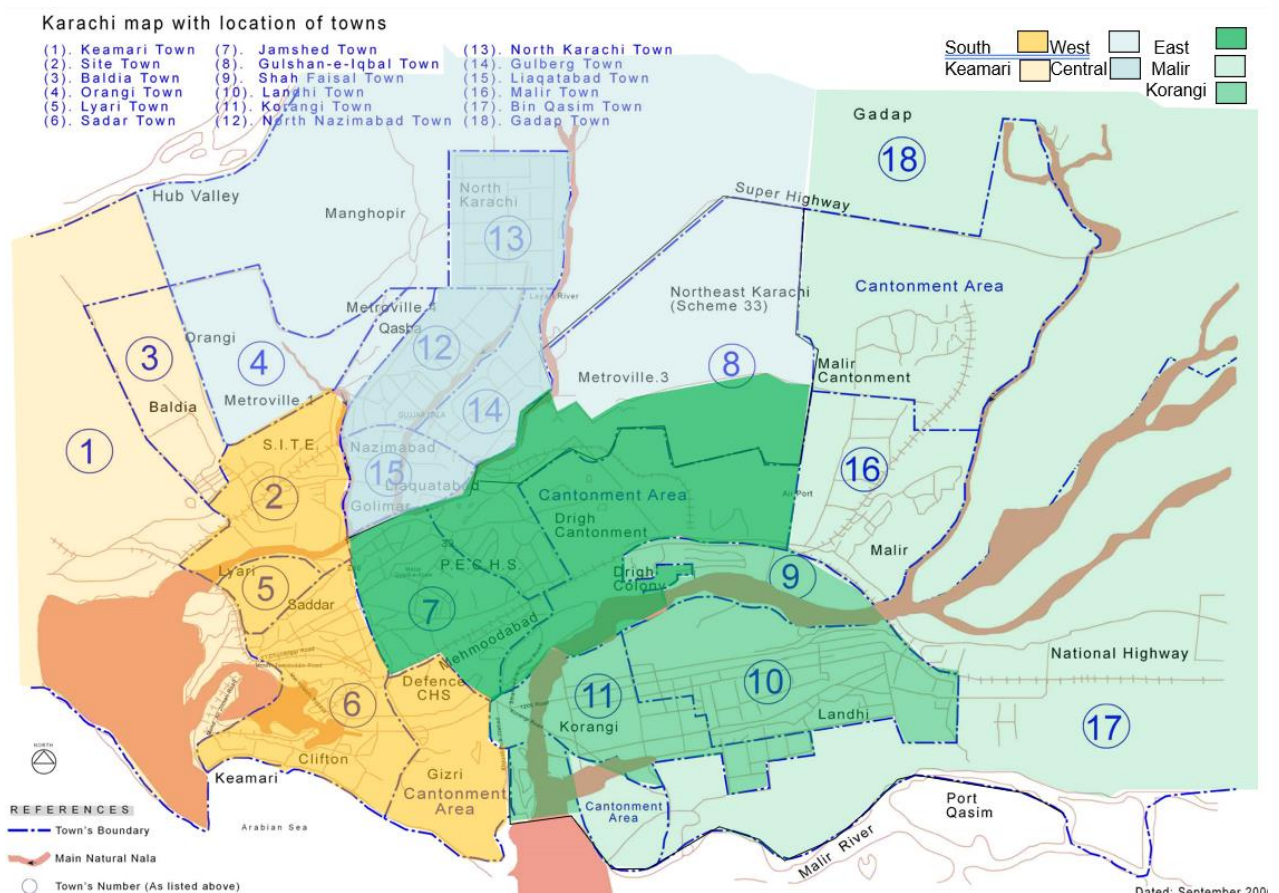
窃盗(バイク)	2023	2024	2025
EAST(EAST)	13137	10168	3666
MALIR(EAST)	2871	2959	950
KORANGI(EAST)	11761	9102	2775
WEST(WEST)	5286	4036	1258
CENTRAL(WEST)	11676	7813	2016
SOUTH(SOUTH)	4924	5345	1958
KEAMARI(SOUTH)	2840	2434	795
合計	52495	41857	13418

強盗(携帯電話)	2023	2024	2025
EAST(EAST)	8131	5931	1780
MALIR(EAST)	1450	1046	275
KORANGI(EAST)	4316	3006	883
WEST(WEST)	2424	1483	465
CENTRAL(WEST)	7621	4516	1240
SOUTH(SOUTH)	2768	2493	706
KEAMARI(SOUTH)	1342	1153	314
合計	28052	19628	5663

誘拐(身代金目的)	2023	2024	2025
EAST(EAST)	6	6	3
MALIR(EAST)	4	5	0
KORANGI(EAST)	0	0	1
WEST(WEST)	1	3	1
CENTRAL(WEST)	1	6	2
SOUTH(SOUTH)	4	2	1
KEAMARI(SOUTH)	1	5	0
合計	17	27	8

殺人	2023	2024	2025
EAST(EAST)	126	130	42
MALIR(EAST)	101	81	31
KORANGI(EAST)	68	57	22
WEST(WEST)	118	101	38
CENTRAL(WEST)	84	62	14
SOUTH(SOUTH)	63	56	13
KEAMARI(SOUTH)	89	67	25
合計	649	554	185

カラチ市地図



各地区の人口と面積

	人口（万）	面積（km ² ）
EAST(EAST)	392	139
MALIR(EAST)	243	2,160
KORANGI(EAST)	313	108
WEST(WEST)	268	370
CENTRAL(WEST)	382	69
SOUTH(SOUTH)	233	122
KEAMARI(SOUTH)	207	559

2023 年国勢調査

5 在留邦人の安全に関わる対策等

（１）最近の治安情勢を受けた注意点

- ・ 象徴的なターゲットへの注意
中国権益や空港等ソフトターゲット、政府重要施設は十分な警戒を要する。
- ・ 中国権益以外への攻撃の可能性
中国権益に対する警備強化により、治安リソースが割かれる傾向にある。
- ・ ローンオフエンダー型テロ事件への懸念
テロ組織の発信力が強まれば、それだけ感化される者も増える。
- ・ 通信制限に対する備え

（２）テロ・一般犯罪対策

- ・ 移動時は警護員を帯同させ、自宅においても警備員の配置を検討する。
- ・ 企業・個人等の情報や行動予定の共有は必要最低限に留める。
- ・ 出退勤においては複数ルートを選定するとともに、出退勤時間を変えることが望ましい。
- ・ 防弾車が準備できれば安全性は増す。
- ・ 治安情勢の変化に伴い、治安当局への応援要請も検討する。
- ・ テロの標的となっている場所（政府・軍・治安機関施設、宗教施設、中国関連施設、米国関連施設）への立ち寄りや集会・抗議活動等には近づかない。

（３）銃器使用による強盗（ガンポイント）対策

- ・ 警護員を帯同させる。
- ・ 銀行・両替商の利用者が標的とされやすいため、現地職員に業務を委託するなど被害に遭わない工夫をする。
- ・ 犯人はバイクや徒歩で近づいてくるほか、標的選定のために見回るケースもあることから、同じ場所に長時間滞在することを避ける。
- ・ 渋滞を避ける。

（４）デモ・抗議集会に関する情報収集

- ・ 渋滞に巻き込まれ強盗等の被害遭遇を避けるため、ドライバー等を活用し、情報収集を行う。

- ・ 群衆は些細なことで暴徒化する可能性があるほか、当該デモ等が犯罪組織やテロ組織の攻撃対象になる可能性もあるため、決して近づかない。

(5) 安全に対する自己点検

- ・ 常に安全に対する問題意識を持ち、疑問点を確認する。
- ・ 安全対策に正解はなく、治安情勢に沿った対策を講じる。
- ・ 安全対策について、当館警備班に相談する。